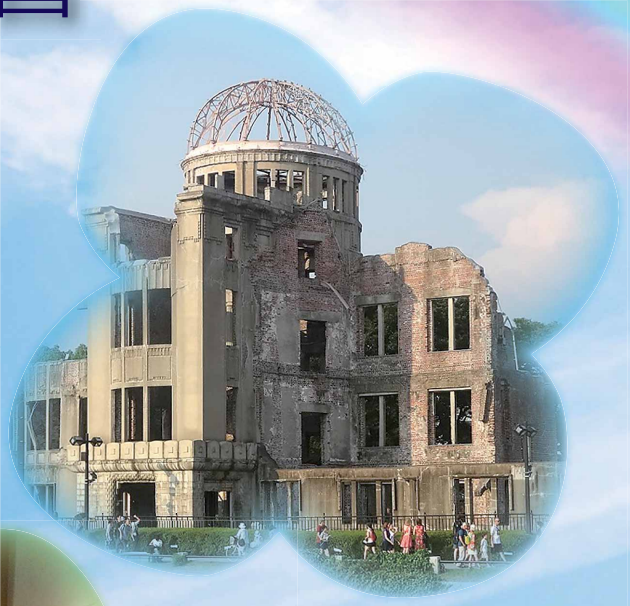
平成 28 年度

東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習
及び
広島派遣事業

報告書



平成 28 年 12 月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会　委員長
東大和市長　尾 崎 保 夫

戦後71年を経て、戦争を体験された方々がご高齢になり、戦争の悲惨さを語り継ぐことが難しくなっております。戦争の記憶が薄れがちになる今こそ、平和の大切さを再認識し、次の世代へ語り継いでいくことが大変重要であると感じております。

こうした中、今年も、平成27年度に続き、第2回目になります中学生を対象とした「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を、東大和市と東村山市が連携し、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け実施しました。

参加した中学生は、初めに、身近な地域である東大和市や東村山市がどのような戦争の歴史をたどったのかを学びました。東大和市では、戦災建造物である旧日立航空機株式会社の変電所を見学し、戦争について考えました。この変電所は、昭和13年に建設され、昭和20年の空襲による機銃掃射や爆撃の跡を無数に残しており、今も、戦争の恐ろしさを訴え続けています。生々しく戦争の傷跡を残す変電所を実際に見た中学生は、自分たちの住んでいる身近な地域においても戦争の脅威にさらされていたことを感じたことでしょう。

その後、広島市を訪問し、世界で初めて核兵器が使われ、原子爆弾により一瞬にして破壊された街の惨状の記録と記憶を実際に見聞してきました。被爆者やその家族のお話を聞いた中学生は、悲惨な戦争を二度と起こしてはならないという想いを心に強く刻んだことと思います。

この事業を通して、現在の平和な世の中が決して当たり前のものではなく、多くの先人たちの犠牲や努力の上で築かれたものであることを学び、その平和の大切さを次世代に伝えていくことが、いかに重要であるかを学習したと思います。実際に、派遣後に実施しました報告会におきましても、中学生の平和に対する熱い想いを聞くことができ、この事業を実施した意義を感じております。

これから、中学生の皆さんには、恒久平和を実現するために、この事業で学んだことを生かし、さらに次の世代に、平和の大切さを伝えていっていただくことを期待しております。

東大和市は、平成2年10月1日、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、「東大和市平和都市宣言」を行い、平和を愛する人々と手を携え、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することを誓いました。これからも、世界で唯一の核被爆国の国民として、様々な取組みを通じて、戦争のない平和な社会を未来に引き継いでまいります。

そして、旧日立航空機株式会社変電所は、平成7年に東大和市の文化財に指定しましたが、近年は老朽化が進んでおります。東大和市では、平和事業の取組みとして、貴重な戦災建造物を「平和のシンボル」として後世に残すため、変電所の保存に努めてまいります。

結びに、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」にご参加いただきました中学生及びその保護者の皆様、また、事業実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

平成28年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会　副委員長
東村山市長　渡　部　　尚

71年前の8月、人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の尊い命を奪いました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、就職や結婚などの差別に遭い、心身に負った深い傷は、今なお、消えることがありません。

私たちは、世界で唯一の被爆国として核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、さらに平和の大切さを、決して忘れることなく伝えていかなくてはなりません。

東村山市は、昭和39年に「平和都市宣言」を行い、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。それ以来、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、さまざまな努力を重ねてまいりました。

こうした中、今年4月、広島市でG7外相会合が開催され、初めてG7外相による広島平和記念資料館及び原爆ドームへの訪問、原爆死没者慰霊碑への献花が行われました。

そして5月、歴史的な1ページが開かれました。原爆を投下したアメリカの現職であるオバマ大統領がはじめて、被爆地である広島の地を訪れたことは、記憶に新しいことと思います。オバマ大統領は演説の中で、「私自身の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない。」と訴えました。それは、被爆者の心の叫びを受け止め、今なお世界に存在し続ける核兵器の廃絶を、アメリカをはじめ世界の人々に示した、大きな意義をもつものとなりました。

その広島に、今年も東村山市と東大和市の中学生20人が訪問しました。中学生たちは、被爆者から体験談を聴き、平和記念式典にも参列しました。世界で初めて核兵器が使われた惨状を実際に自分の眼で見て、耳で聴き、あの夏にどのようなことが起こったのか学習してきました。また、地域の戦争・平和学習会では、自分たちの住むまちでも戦争の被害があったことを学びました。

戦後71年が経ち、戦争を直接体験した方々が年々少なくなってきています。私たちは、次世代を担う子どもたちに、二度と戦争を起こしてはならないことを伝え、平和を守っていく、その先頭に立っていかなくてはなりません。

この事業を通じ、参加した中学生たちがどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧いただき、一緒に平和について考える機会にしていただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました中学生及び保護者の皆さま、ご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

平成28年12月

目　次

① 実施概要・日程 …… 4

② 参加者名簿 …… 5

③ 地域の戦争・平和学習会 …… 6

④ 広 島 派 遣 …… 8

⑤ 報　告　会 …… 12

⑥ 参加者感想文

Ａグループ …… 16

Ｂグループ …… 21

Ｃグループ …… 26

Ｄグループ …… 31

⑦ 参加者アンケート …… 36

⑧ 資　料

東大和市平和都市宣言 …… 40

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言 …… 41

1 実施概要・日程

事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

7月 7 日（木）東大和市 7月 8 日（金）東村山市	事業全体の事前説明会
7月21日（木）	地域の戦争・平和学習会（東大和市・東村山市）
8月 5 日（金）～7日（日）2泊3日	広島派遣（広島市・呉市）
8月 9 日（火）	報告会準備（東村山市役所）
8月13日（土）	報 告 会（東大和市「平和市民のつどい」）
8月28日（日）	報 告 会（東村山市「平和のつどい」）

広島派遣日程

日次	月日（曜）	行程	宿泊地
1	8/5（金）	●集合時間　東大和市駅 9:00　東村山駅 9:00 東大和市駅（西武線）／東村山駅（西武線）— 10:47 品川駅 ＝JR新幹線利用（のぞみ165号）＝ 14:41 広島駅 ═ 15:45 **広島市青少年センター** ═ 18:30 【昼食：車中にてお弁当】 **※広島被爆者体験講話聴講** **グループワーク** **とうろう作り** ═ 20:00 ホテル（夕食）	広　島
2	8/6（土）	6:00 ホテル（車中朝食） ═ **広島平和記念公園** 7:15 **（式典参加）** ═ 10:20 **軍港の街「呉」で平和学習** ------- 11:20 昼食 海上自衛隊呉資料館 **てつのくじら館** ※式典：8:00～8:45 式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈る。 ═ 12:30 **大和ミュージアム** ═ 14:45 **広島城** ═ 16:20 **本川小学校平和資料館** ═ ※被爆した旧国民学校の建物の一部を利用した平和資料館を見学する。 ═ 18:00 **とうろう流し** ---------- 18:15 **原爆ドーム** ═ 19:00 夕食 ═ 21:00 ホテル	**広島** **エアポートホテル**
3	8/7（日）	8:00 ホテル（朝食） ═ 9:00 **広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・原爆の子の像** ※戦争や原爆に関する資料に触れ、平和について学習する。 ═ 12:13 広島駅 ＝JR新幹線利用（のぞみ24号）＝ 16:13 東京駅 — 【昼食：車中にてお弁当】 ●到着時間　東大和市駅18:00　東村山駅18:00	東大和市駅（西武線）／東村山駅（西武線）

2 参加者名簿

市も学年も混合の４つのグループを編成し学習しました。

参加者：東大和市　９人（男４人　女５人）　東村山市　11人（男６人　女５人）
報告会：A・Bグループ　８月13日（土）東大和市「平和市民のつどい」
　　C・Dグループ　８月28日（日）東村山市「平和のつどい」

グループ	名　前	学　　校	学　年
A	加藤（かとう）　翔太（しょうた）	東村山市立東村山第三中学校	３年
	木村（きむら）　洋斗（ひろと）	東大和市立第五中学校	３年
	齋藤（さいとう）　麗羅（れいら）	東村山市立東村山第二中学校	１年
	桜井（さくらい）　希（のぞみ）	東大和市立第一中学校	２年
	明才地（めいさいち）　茉弥（まや）	東大和市立第三中学校	３年
B	高見澤（たかみざわ）　岳（がく）	東村山市立東村山第六中学校	２年
	手島（てしま）　結矢（ゆうや）	東大和市立第二中学校	１年
	蛭川（ひるかわ）　ななみ	東村山市立東村山第七中学校	３年
	堀（ほり）　史弥（ふみや）	東村山市立東村山第三中学校	３年
	宮城（みやぎ）　彩菜（あやな）	東大和市立第三中学校	３年
C	岸本（きしもと）　渉（わたる）	東大和市立第五中学校	３年
	菅原（すがわら）　莉彩（りさ）	東村山市立東村山第六中学校	２年
	寺島（てらしま）　那菜（なな）	東大和市立第二中学校	３年
	長須（ながす）　心優（みゆ）	東村山市立東村山第二中学校	１年
	松井（まつい）　陸（りく）	東村山市立東村山第四中学校	１年
D	安部（あべ）　知生（ともき）	東村山市立東村山第七中学校	３年
	阪下（さかした）　紗友美（さとみ）	東村山市立東村山第三中学校	１年
	白木（しらき）　嵩人（たかと）	東村山市立東村山第五中学校	１年
	中﨑（なかさき）　萌夏（ともか）	東大和市立第四中学校	２年
	松土（まつど）　隆太（りゅうた）	東大和市立第五中学校	３年

3 地域の戦争・平和学習会

中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、
自分たちが住んでいる身近な地域でも
戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月21日（木）

午前
- 東村山市「東村山ふるさと歴史館」見学
- 東大和市「郷土博物館」戦争体験映像記録DVD視聴

午後
- 東大和市指定文化財「旧日立航空機株式会社変電所」見学
- グループワーク「地域の戦争・平和学習まとめ」「広島で学びたいこと」

東村山ふるさと歴史館見学

文化財保護や歴史資料の収集、歴史に関わる展示を行っている「ふるさと歴史館」で、東村山における戦争の被害について学びました。

当時、東村山地域にもB29が飛来し、照明弾と時限爆弾が投下されました。これにより家屋が被災し、死者もありました。そのような中、低空飛行していたB29が南秋津に墜落、乗組員全員が死亡しました。後に、地元に住む市民の手によって平和観音が建立され、手厚く葬られています。

また、東村山には軍事施設である「陸軍少年通信兵学校」があり、15歳前後の少年たちが、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について訓練を受け、戦地で作戦命令や報告を通信しました。

これら当時の状況をふるさと歴史館の職員から聞き、展示等を通じて学習しました。

戦争体験映像記録DVD視聴

東大和市では、昨年、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や、そこに勤務されていた方々の戦争体験談などをまとめたDVD「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」を制作しました。

DVDに納められた映像は真に迫るものがあり、とても興味深く視聴しました。

※「沈黙の証言者」のダイジェスト版がYou Tube「東大和市公式動画チャンネル」で視聴できます。

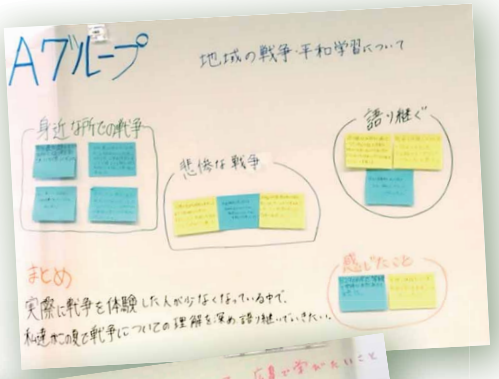
旧日立航空機株式会社変電所見学

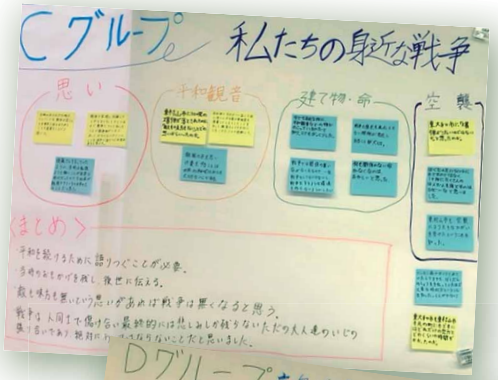
昭和13年に建設された軍需工場の変電施設である「旧日立航空機株式会社変電所」は、昭和20年の空襲による傷跡が残る施設です。戦後、経営母体が変わっても修理されないまま平成5年まで操業を続け、平成7年に東大和市の文化財に指定されました。

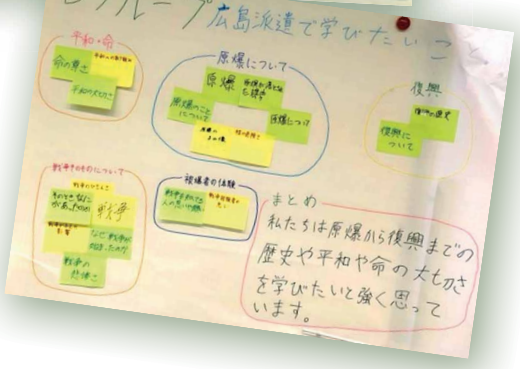
学習会では、普段は公開されていない施設内にも入り、空襲による弾痕などが残る壁や階段等を見学しました。あわせて、東大和市立郷土博物館の職員から施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け学習しました。

グループワークでのまとめ

これらの学習のまとめを行うために、4つのグループに分かれ、グループワークを行いました。「地域の戦争・平和学習まとめ」「広島で学びたいこと」を付せんに書き模造紙にまとめました。最後にグループごとに発表しました。







4 広島派遣

1日目 8/5(金)

広島被爆者体験講話の聴講

広島市青少年センター

講師：白石多美子さん

原爆が投下された時、広島市宇品の国民学校１年生だった白石多美子さんからお話を聴きました。

白石さんはその時の様子を、「学校の教室の窓から青白い光が見えたと同時に、ごう音と地響きがして、窓ガラスが割れ飛び散った。自分も友達もみんな教室の外に出て裸足で逃げた。家にたどり着いた時には頭や体にガラスが刺さり、血だらけだった。」「つらく思い出したくない事だが、伝えていくことが大切だと思い、話し続けている。」と話していました。

被爆者の方々には、「もう二度と被爆者をつくりたくない。地球上から核兵器をなくしたい。」という強い願いから、自らの被爆体験を若い世代に語り継ぐ「語り部」という活動をしている皆さんがいらっしゃいます。しかし、その方々も高齢化が進み、年々お話しを聴く機会が少なくなってきています。

白石さんのお話を聴き、中学生たちは、あの日に何が起こったのかを体験談を通じて知り、平和の大切さを学ぶことができました。

講話の後、グループワークを行いました。それぞれが白石さんのお話を聴いて、感じたこと、考えたことをまとめました。

とうろう作り

広島市青少年センター

２日目のとうろう流しに使う色紙に、平和への願いを書きました。メッセージを書いたり、イラストを描いたり、それぞれの平和への想いを込めた色紙ができました。

2日目 8/6(土)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列しました。

今年も、被爆者や政府関係者、各国代表、原爆死没者の家族や広島市民、そして世界中から５万人が参列しました。

原爆が投下された午前８時15分には、平和への想いを胸に１分間の黙とうを捧げました。

呉市で平和学習

当時、様々な兵器・軍艦が製造されていた呉市は、第二次世界大戦で真っ先に攻撃され、街は焼け野原となりました。戦後、工業都市として発展した軍港の街を訪れ、平和について考えました。

■ 海上自衛隊呉資料館「てつのくじら館」

日本で唯一、実物の潜水艦を陸上に展示している博物館です。

潜水艦内を見学し、海上自衛隊の歴史についても学ぶことができました。

■ 大和ミュージアム

全長26.3メートルもある実物の10分の１サイズの戦艦「大和」がシンボルで、高度な科学技術を語り継ぐ博物館を見学しました。

広島城

広島壊滅の第一報を打電した中国軍管区司令部防空作戦室跡や被爆樹木、大本営跡、復元された広島城天守閣などを見学しました。

広島城

被爆樹木

本川小学校平和資料館

爆心地から最も近く（約410ｍ）にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。

そこでは、被爆２世のガイドボランティア岩田美穂さんから、原爆で家族５人を亡くした母親の体験を聴きました。被爆数日前に撮った母親の一家６人の家族写真とその悲しみに満ちたお話は、「戦争を絶対に繰り返さない」という思いを強くしました。

原爆ドーム

広島県の様々な物産を展示していた建物「広島県産業奨励館」は、被爆した後も当時の姿のまま建ち続けています。

この原爆ドームは、爆心地から約160メートルの所にあり、至近距離で被爆しました。

当時、この建物にいた人は全員即死しました。

建物の頂上にある円盤鉄骨の形から、いつしか「原爆ドーム」と呼ばれるようになり、現在は世界遺産（文化遺産）に登録されています。

原爆の威力を思い知る建物の姿に、核兵器の悲惨さを改めて実感しました。

とうろう流し

平和記念公園の脇を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。1日目に平和への願いを書き込んだ色紙を使い、ろうそくの灯をともしたとうろうを一人一人、川へ流しました。

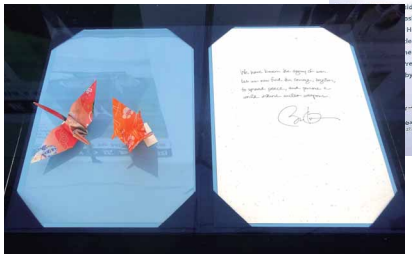
日が暮れて、たくさんのとうろうが流れていく光景はとてもきれいで、平和を願い皆で祈りました。

3日目 8/7(日)

広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。資料の一つ一つには、人々の悲しみや怒りが込められています。5月に広島を訪れたアメリカのオバマ大統領が残した折り鶴も展示されていました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表するとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。遺影コーナーでは、原爆死没者の遺影と名前が12面大型モニターに映し出され、多くの人々が亡くなった事実を目の当たりにし、改めて原爆の凄まじさを学びました。



原爆の子の像

原爆の子の像がつくられるきっかけとなった佐々木貞子さんは、2歳の時に被爆し白血病を発症、12歳で亡くなりました。「鶴を千羽折れば病気が治る」と聞いた貞子さんは、亡くなる前に1,300羽以上の鶴を折りました。

悲しい知らせを聞いた同級生たちは、原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、平和を築くために「原爆の子の像」を建てました。今でも、年間約1,000万羽の折り鶴が捧げられています。

中学生たちもたくさんの鶴を折り、原爆の子の像へ捧げました。

5 報告会

本事業は、東大和市と東村山市が共同で実施した事業であり、
報告会は、それぞれの市で実施した平和行事の中で行いました。
ＡからＤまでの４グループのうち、Ａ、Ｂグループが東大和市で、
Ｃ、Ｄグループが東村山市で発表を行いました。

報告会 1

日時	8月13日（土）　東大和市「平和市民のつどい」
場所	都立東大和南公園　旧日立航空機株式会社変電所前　平和広場

Ａグループ

東大和市・東村山市にも空襲があり、当時、自分たちと同世代の子どもたちは、女子は働き、男子は兵士として戦うための訓練に駆り出され、今のように自由に学ぶことはできなかったことを知り、「二度と戦争を起こさない、そして忘れない」という強い思いを感じたと語ってくれました。

また、印象に残ったこととして、被爆体験者の白石さんのお話で、「両親を大切にしてください。今回の話や学んだことを、人に話すなどの小さなことからでも平和につながります。二度とあのような悲劇が降りかからないように、これからの平和を守っていってください。」という言葉を挙げていました。

広島平和記念資料館の見学では、改めて原爆の恐ろしさや被害状況を目の当りにし、核兵器の恐ろしさを現実のものとして受けとめたとのことでした。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- 今では多くの国が、何十倍・何百倍もの威力をもった核爆弾を持っています。それをこの先使わせないためにも、原爆の惨劇を風化させず、未来へと語り継いでいくことが大切だと思います。

- 戦争のすべてを理解する事ができなくても、私たちにしかできないことがあると思います。これから先、小さなことから少しずつ、身近な平和につながることを続けていき、核兵器のない平和な世界を作っていきたいです。

- 日本は戦争で多くの人を失いました。その亡くなってしまった尊い命を決して無駄にしてはいけません。二度と同じようなことが起きないように、日本国民としてできることを探し、実践していかなければならないと考えました。

- 当時の子どもたちは自分のやりたいこともできずに、自由ばかりか、多くの命までが奪われました。一人一人が戦争の残酷さ、悲惨さを知り、小さなこと、身近なことから、誰かではなく「自分」が変えていくことが大切だと思います。

- 時間の経過とともに、だんだんと当時のことや戦争の恐ろしさを語ってくれる人は減ってきています。語り部の方が少なくなっている今だからこそ、私たちが笑い声や豊かな緑を、そして平和を守っていくのです。

B グループ

東大和市の旧日立航空機株式会社変電所の見学では、10回に及ぶ空襲に襲われ、多くの尊い命が奪われたことを知り、「戦争は愛と平和を奪う」ということを強く感じました。また東村山市では、墜落したB29に乗っていた米軍兵士たちのために平和観音を建立し、敵・味方を越えて供養したことを知り、そのことが、平和への一歩になったのではないかと思ったことなどを報告しました。

広島での被爆体験者の白石さんのお話で、当時7歳で被爆して大切な人を4人失ったことを聞き、原爆の恐ろしさ、悲しさを改めて実感したとともに、戦争の恐怖と平和の大切さを未来につなげるため、語り続けている姿に感銘を受けたとのことでした。

様々な事を見聞きする中で、一人一人が思いやりを持って行動することが、いかに大切か、どの様な未来を作るかは自分たち次第なのだと力強く語りました。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を1人ずつ発表しました。

- 被爆者の白石さんの話の中で印象的だったのは、暮らしの小さなことから平和が生まれるとおっしゃっていたことです。そのことをよく胸に刻んで過ごしていきたいと思いました。

- 今回学習した悲劇を忘れずに、また、このことを多くの人に広めていきたいと思いました。そして、戦争を二度と起こしてはいけない、平和を大切にしなければいけないと強く感じました。

- 身近な戦争についてのDVD、被爆体験者講話、本川小学校の岩田さんの話などが特に印象に残りました。戦争は、人と共に人の心までも殺すものだと改めて実感しました。この思いを忘れずに、後世につないでいきたいと思います。

- 語り部の方の「戦争のない未来は、あなたたち皆が作っていくものだからね。」という言葉が、とても心に残りました。この言葉をしっかりと受けとめ、自分たちがたとえ少しずつでも、平和につながることを実践していかなければならないと思いました。

- 広島には、とても豊かな自然と発達した都市、またそこを笑顔で歩く多くの人々の姿がありました。71年前とは大きく違うその光景に私は、もうあの惨劇は繰り返さないという、大きな意志を感じました。ここまで復興したのも平和への強い想いと意志があったからに違いありません。

報告会 2

日時	8月28日（日） 東村山市「平和のつどい」
場所	東村山市立中央公民館ホール

Cグループ

東大和市の旧日立航空機株式会社変電所では、空襲の痕がそのまま残っており、それを目にした時、恐怖を感じたこと、戦時中、東村山市が大規模な疎開場所であったことが印象に残ったことなどを伝えてくれました。

被爆体験者の白石さんの話では、71年前のことを鮮明に覚えていてお話をされる姿に、その怖さがどれほどのものだったか改めて考えたと報告しました。

とうろう流しでは、「外国人の参加者もおり、世界中に広島からの思いや命の尊さ、平和の大切さが伝わってくれればよい」と強く思ったとのことでした。

その他、広島平和記念資料館や今でも原爆の痕跡が残っている本川小学校平和資料館を見学した時に感じたことを報告し、これからは、戦争の悲惨さや悲しさや命の尊さを伝え、武力だけではない新たな解決法を見出すことが大切だとまとめました。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- 私は、今まで、命の尊さを感じたことがありませんでした。人が生きているのが当たり前、体が痛くないのが当たり前だと思っていました。この事業に参加して、初めて、その当たり前がもろく、いつでも崩れ去ることがあるということを感じました。

- 広島に行って学んだことは、命の尊さと平和の大切さです。私たちが、戦争や原爆のことを知らない人たちに今回学んだことを伝えていき、平和が永遠に続くように出来る限りのことをしていきたいと思いました。

- 地域の戦争・平和学習で身近なところにも戦争があったということがわかりました。また、戦争について伝えるためには、戦争の痕跡を残していくことが大切だと考えました。

- 年月を経て、被爆者や戦争を体験した人々が少なくなってきています。私たちが今回学んだことは知人などに広め、後世に残していく必要があります。今回広島で見てきたものが現実にならないよう、平和が保たれることを私たちは願います。

- 戦争や原子爆弾を投下する前に、命の重さを考えていたら、たくさんの尊い命が失われなかったかもしれません。私は、一人一人の命を大切にし、これからも平和を大切にしていきたいと思います。

Dグループ

地域の戦争・平和学習では、東村山市秋津町にB29が墜落した時、平和観音を建て、国を越えて兵士の供養をしたことや、モールス信号などを学ぶ東京陸軍少年通信兵学校があったことなどを初めて知ったと発表しました。東大和市では、銃弾が壁に当たって穴やへこみを作った変電所が、戦争後も使われていたことを知って驚き、この地域でも戦争があったことを実感した、と伝えてくれました。

被爆体験者の白石さんから、多くの大切な人を失った悲しみ、自分の命も危ぶまれたこと、言葉に表せないほどの惨劇の様子を聞き、原爆の恐ろしさを改めて感じたとありました。

本川小学校平和資料館を見学して、原爆症の恐ろしさ、そして今でも戦っている多くの人がいることを知り、「苦しむ人がいなくなってほしい」という思いを強く持ったことを報告しました。

グループとしての報告の後、事業に参加した感想を１人ずつ発表しました。

- 私が一番印象に残ったのは、広島平和記念式典です。安倍内閣総理大臣や、国際連合事務総長の英語のスピーチ（代読）を聞き、平和への思いに強く心を打たれました。絶対に自分たちの手で核廃絶をしていかなければならないと思いました。
- 広島で、被爆者の方の話を聞き、核の恐ろしさや被爆者の悲しみの深さを知りました。原爆はもう二度と使ってはいけない兵器だと強く思いました。今、僕たちにできることは少ないですが、原爆の恐ろしさをまわりの人たちに伝えていきたいと思います。
- 年月の経過と共に、被爆者の方は減っていくでしょう。この惨劇を記録に残し、語り継ぎ、二度とこのようなことを繰り返してはいけないと改めて思いました。
- 目の前で人が亡くなっていく、優しいはずの人が怖い人に変わっていく、そんな話を聞き、胸が張り裂けそうになりました。被爆者の方のお話で、たくさんの痛みや悲しみを学びました。
- 僕たちは、広島へ行って、原爆の被害を受けた建築物や被爆した人の話を聞きました。平和な未来をつくるためには、平和について、まず深く学ぶことが大切だと思いました。

6 参加者感想文

Aグループ

平和を続けるために

東村山市立東村山第三中学校　３年
加藤　翔太

この広島派遣事業で僕は多くの事を知り、そして考えました。

僕はこの派遣事業の募集を学校で配布されたプリントで知り、あまり深い理由もなくなにげない気持ちで応募しました。なので、広島の戦争の事はおろか、自分の地域の戦争についても詳しく知りませんでした。

東京都と言っても埼玉に近く、都心近くではない東村山、東大和にも空襲があり被害をうけていたことも知り驚きました。

そして、東大和には旧日立航空機株式会社変電所の跡があり、悲惨な戦争の傷跡を目の当たりにしました。

地域の戦争について学んでいくと、今まで気づかなかった身近な所にも戦争の痕跡が残っていて、自分の無知さを実感しました。

８月５日、実際に広島へ行き、語り部の白石さんのお話や資料館などを見ると、戦争の恐ろしさや悲惨さが伝わってきました。

語り部の白石さんの原爆投下後の様子を聞き、いくつも衝撃をうけました。

道に転がった死体。服は焼け、肌はひどいヤケド。このような話は聞いておもしろいものではありません。できれば聞きたくない、そんな風に思う人もいると思います。

ですが、これらの話は事実です。71 年前に僕達が住んでいる日本で起こった出来事です。白石さんは「思い出したくない記憶」を思い出し、僕達に話してくれました。

それは、これからの未来、あの悲惨な出来事を二度と起こしてほしくない。そんな、白石さんの願いが込められているのではないでしょうか。

戦争は過去の出来事ではありません。今の平和が突然奪われて 71 年前の悲劇を繰り返すことになるかもしれません。そうならないためにも、僕達が知り、学び伝えていく必要があると思います。

世界から戦争を無くしたい、そう思ってもすぐに変わるものではありません。少しずつ、少しずつ小さなことから自分の手で変えていかなくてはいけません。

広島派遣事業の３日間は僕にとって様々な事を考える貴重な３日間でした。今の平和が続き、笑顔でいられる未来を繋げていきたいと思いました。

広島派遣事業に参加して

東大和市立第五中学校　３年
木村　洋斗

私が、この事業に参加したのは２回目で、もう一度戦争の悲惨さや核爆弾の恐ろしさを学びたいと思い、今回も参加させてもらいました。

去年と、寄る所は違い今回は広島城へ行きました。

広島城では、被爆樹木や焼けた石垣を見てきました。

焼けた石垣はピンク色になっていて、どうして焼けたかというと原爆の爆風で倒壊した建造物が燃えてその影響でピンク色になったと言っていました。

被爆樹木は、原爆が落とされて尚、残って生きている木のことで広島城には２本あってその内１本ははだしのゲンの作者さんが子供の頃よく遊んでいた木の子供です。

その木は被爆後、倒れてしまいましたが倒れてしまった所からまた芽が出て、木となりました。

ユーカリの木は普通、まっすぐ伸びるはずですが原爆のせいか、ぐにゃぐにゃ曲がっていました。

他にも、たくさんの所へ行ってきました。

大和ミュージアムでは、戦艦大和の大きさを改めて思い知ったり、人間魚雷、人間爆弾というものがあるというのを知りました。

てつのくじら館では、本物の潜水艦の中に入ってみて天井が低い事が分かりました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、改めて原爆で死んでしまった人の多さを知りました。

中でも、私の印象に残っているのはやはり広島平和記念資料館です。

広島平和記念資料館には、原爆が落とされた後の広島の様子や、被爆して黒こげになってしまった人の写真や、あまりの熱さに溶けてしまったビンなどがあり、一番心に残っているのは被爆直後の様子を表したろう人形です。

しかし、被爆者体験講話で、これはまだいいほうと言っていたので、人形でも十分ひどいのに本当はあれよりもひどいと思うとぞっとしました。

私はこの事を通して改めて戦争はしてはいけないと思いました。

もう二度とこんな惨劇を生みださないためにも、この話を未来へと語りついでいき戦争をしようなんていう気持ちを起こさないようにしていきたいと思いました。

広島派遣事業で学んだこと

東村山市立東村山第二中学校　１年
齋藤　麗羅

「平和」の大切さと、「平和をつくることの大変さ」を改めて知ることができた、広島派遣事業。広島では自らの被爆体験を話してくれた人、自身の母が被爆したという被爆二世である人、勉強して得た知識を話してくれた人、たくさんの人がいました。

この世界には、たくさんの人がいます。たくさんいるから、とっても楽しくなります。たくさんいるから、個性があります。しかし、その個性が原因でぶつかり合うこともあります。ぶつかり合いがやがて勢力を拡大し、戦争にもなります。では戦争にしないためにはどうすれば良いのでしょうか。個性を無くす、そんなことは絶対に無理です。答えは、広島と広島にいる人が教えて下さいました。

１日目。被爆者体験講話では、71 年前に被爆した白石さんのお話を聞きました。その話はとても恐ろしく、とても辛かったです。白石さんは、悲しい過去を私達に、鮮明に話して下さいました。一発の原子爆弾で、何十万人もの尊い命がうばわれ、白石さんも、大切な人を４人も失いました。最後に白石さんは、

「この平和をいつまでも守って、どの国とも仲良くして下さいね。」

と私達に言いました。次世代を担う私達に、平和の大切さを教えて下さった一言でした。

２日目。広島平和記念式典に参加し、参列者全員で平和を誓いました。

呉市の大和ミュージアムでは、「戦艦大和」について知ることができました。「てつのくじら館」では、当時使われていた潜水艦の中に入り、昔の技術も学べました。

広島城では、防空壕に入ったり、被爆樹木を見学したりして、原爆の被害や当時の生活への知識を深めることができました。

とうろう流しでは、平和を願う各国の方々が、とうろうにピースメッセージを書き、川へ流しました。

３日目。広島平和記念資料館では、原爆被害について、多くの知識を増やすことができました。

他にもたくさんのことを学べた広島派遣事業。広島に行って学んだことを一生忘れません。

戦争をしないために、平和を保つためには、「笑顔を絶やさないことが大切」、「相手を受け入れることが大切」と広島に教えてもらいました。

この事業を通して私が得たもの

東大和市立第一中学校　２年
桜井　希

派遣事業を終えて私が得たものは、
原爆の恐ろしさを知った。
戦争は二度としてはいけないと思った。
それだけではありません。

家に帰って今までだったらとまるはずのない記事に目がとまっていたり、気がつくと戦争についてのテレビに見入り、共感したり考えたりということがありました。

その時私は自分でも全く気がついていなかった自分の変化を知り、同時に71年前に起こった出来事を多くの人達が知り、考え、周りや後世に広げていくことの必要性を感じました。

私がここまで「変化」することが出来たのはまぎれもなくこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業のおかげだと思います。

地域の戦争・平和学習で旧日立航空機株式会社変電所の２階に入れさせてもらったとき、壁や机などが当時のまま保存されていて、話を聞いているうちに頭の中に空襲があった時の様子が見たことがないのに浮かんできたり、ビデオの中で繰り返し流れる空襲警報や当時の話を聞いて恐いと感じたり初めての経験をたくさんさせていただきました。

広島ではまたさらに初めての経験がたくさんありました。

白石さんのお話では、お米が数粒しか入れられず、雑草が入ったおかゆを食べていたという戦争中の状況や３㎝のガラスが刺さっていても気がつかない程必死に走ったことや、善意であげた水によって人が死んだことがずっとトラウマになっていたことなど原爆の生々しいお話を聞かせていただき、本当に昔あったことなんだという実感がわき、また、白石さんの願いを聞き、私達がこれからの平和を創るんだと中学生としての使命を感じました。

次に広島城では、原爆の爆風によって石がきだけになった御門や旧中国軍管区司令部通信室で働いていた14才の子が入り口から奥の部屋まで飛ばされたことなど原爆の威力を実際に見ることができました。

また、被爆したユーカリの話では被爆し、二度の大きい台風で折れ、枯れながらも新たな芽を吹かせ、今なお私達に原爆の惨劇を伝え続けてくれているユーカリに、放射線の恐ろしさと共に、勇気をもらいました。

最後に広島平和記念資料館できのこ雲の写真や、変形した鉄やガラス、ぼろぼろになった服、再現のジオラマ人形など数々の恐ろしい展示品。佐々木禎子さんの話や小さな折り鶴などから原爆の恐ろしさを心の底から感じました。

他にもとうろう作りや平和記念式典への参加、てつのくじら館、大和ミュージアム、本川小学校、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の見学、原爆の子の像などたくさんのプログラムから私は多くの刺激を受けさせていただくことができました。

そして、私の中にこれからの平和を創るのは自分達なんだという意識が芽生えました。

祈念館に村上敏夫さんという方が書いた証言があり、そこには

「今や平和の鐘はなっている。私達は深く頭を垂れてひたすら平和の祈りを捧げている。この真実の記録が世界の平和を築く一つの小石として役立つことを心から祈っている。」

という文があります。

被爆した人達の証言、遺品、あの悲劇を物語る数々のもの達を被爆したユーカリのように私達が新たな芽として守り、役立てていき、この手で未来の平和を創っていくのだと気づかせてくれた６日間でした。

本当にありがとうございました。

戦争を知って

東大和市立第三中学校　３年
明才地　茉弥

私は、東大和市と東村山市の戦争について学び、自分の想像以上に身近にたくさんの戦争の痕跡が残っていて驚きました。私は正直今まで、「都立東大和南公園には、爆撃を受けたのに残っている変電所がある。」という安易な認識でした。しかし、今自分が暮らしているこの場所は、約70年前まで10回もの空襲があり、そのうちの３回で、100人以上の方々が犠牲となる戦場だったことを知りました。すぐ近くに戦争の悲惨さをもの語っているものがあるのに、私達のような世代は特に、素通りしてしまう人が多いと思います。私も、そのうちの一人でした。でも、私は戦争中の東大和市の様子や出来事を知り、激しい爆撃の中で生き残った「変電所」に対する見方がはるかに変わりました。たくさんの人達が、この建物を保存しようと努力、協力して、守られてきたものということを再認識し、その努力を無駄にしないように、これから先も大切に守り続けなければいけないと思うようになりました。

そして、平和市民のつどいで私達の発表を聞いた家族や知り合いの方は、「もう一度、資料などを見て、東大和市で起こった戦争について詳しく知りたくなった。」と言ってくれました。

私は、このように言ってくれる人がもっと増え、少しでも多くの人達に東大和市の戦争の事や「変電所」の大切さを知ってもらいたいです。そのために、特に同世代の人達に今回学んだことを話していきたいです。

そして広島では、戦争、核兵器の恐ろしさをもの語っているものを実際に目で見て、現地の方の声を生で聞くことができました。正直驚くことばかりで、全てにおいて私の想像を超えていました。

私は、被爆を体験した方やボランティアの方から、「道に真っ黒に焼けた人が転がって死んでいた。」「終戦後も“被爆者”と差別をされ苦しみ続けた。」というような、信じがたい、衝撃的な事実をたくさん聞きました。今は、当たり前のように自分のやりたいことができます。当たり前のように学校に通い、勉強することができています。私は正直、「学校なんてめんどくさい。」と思ったりしていました。でも、話を聞いているうちに、当たり前なんかではなく、恵まれていることなんだと改めて実感し、ありがたく、そして、勉強できなかった人の分まで一生懸命勉強したいと思いました。

さらに、話を聞いていくなかで、皆さん口をそろえて「あの臭いは、今でも鼻にくっついて取れない。口では、言い表せられない臭いだった。」と言っていたことが印象に残っています。私達が、戦争について、たくさん話を聞き、学び、理解しようとしても、戦争や核兵器の本当の恐ろしさは、実際に体験した人にしか分かりません。しかし、小さい子供から年配の方まで、たくさんの人達が参加しているとうろう流しや式典を見て、戦争の全てを理解することはできなくても、「伝えたい」という想いがあれば伝わり、たくさんの人から「平和」という共通の願いが生まれることが分かりました。

「人事」「昔の事」では、ありません。現在、当時の何十倍、何百倍もの威力を持った核兵器が数多く存在し、それをたくさんの国が所持しています。広島で見てきたものが、「日本の未来」になってはいけません。そのためには、一人一人が思いやりを大切にし、小さな平和を生み続ける必要があります。「世界平和」実現のため、少しでも多くの人に知ってもらえるよう、私は今回学び、知ったことをたくさんの人に話し、伝えていきたいと心から思います。

Bグループ

平和と原爆について考える

東村山市立東村山第六中学校　２年
高見澤　岳

僕がこの平和学習及び広島派遣事業に興味をもった理由は、姉が来年留学を予定していて、今、日本のことを勉強しています。それをそばで見ていて、自分も学びたいと思ったからです。この事業で一番興味があったのは、被爆者の方のお話です。理由は、被爆者の方の生のお話が聞けるのは、僕にとって最後のチャンスだと思ったからです。

僕は、戦争のことについて、まだおぼろげだったため、身近な戦争のことについて知ることになりました。そこで僕らは、東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所を訪れました。そして、そこに残されていた銃弾の痕を見て、戦争は本当にあったんだということを改めて実感しました。

戦争のことについて知ることができたので、僕達は広島を訪れることになりました。早速、被爆者の白石さんに話を聞かせていただくことになりました。白石さんは、77歳で当時６歳だったそうです。白石さんは、国民学校に行って、本を開こうとした時、被爆したそうです。僕は白石さんのお話を聞いて、今一番印象に残っている場面は、

「青白い光は、ピカッ！っとなってなんだろうと思った瞬間に激しい爆音がした。爆音のあとに爆風がきて、窓ガラスが割れて、いろんなところに刺さった。クラスはパニックで外へ出ようとしたら、ゲタが爆風で飛ばされ、ゲタがなくなっていて裸足で家まで走っていった。そして、母に会ったら、母が『そのガラスどうしたの』といって、頭と左腕に刺さった大きなガラスをとってくれた。足の裏にも小さなガラスが刺さっていて全部取ると、子どもの手で山積みになるぐらい刺さってて、びっくりした。」

というところです。

僕は、この白石さんの話を聞いて、この平和な日本に生まれた僕は、幸せだなと思いました。そして、今のような幸せな日本が71年前はなかったということに気付かされました。

そして、次の日に、平和記念式典に参加しました。その式典に参加して、広島市の方々は、71年前の８月６日午前８時15分に起きた悲劇を忘れずに、根深く残されていることがわかりました。原子爆弾を投下されたことを教訓にして、強く世界に向けて、核兵器廃絶を訴えていました。

早くも最終日です。平和記念公園内にある、広島平和記念資料館を訪れました。資料館には、８時15分で止まった時計や、蝋人形や、被爆死した動員学徒たちの遺品などが展示されていました。僕はその展示物を見て、原爆の悲惨さや残酷さがすごく伝わってきました。

この事業を通して、白石さんのお話の最後に出てきた

「小さなことから平和がうまれる」

とおっしゃっていたことを胸に刻んで、これからの生活を過ごしていきたいです。今世界では、テロや内戦が多発しています。その度に、罪もない人が亡くなっています。僕は、そのような事件が起きる度に、胸が痛くなります。一日でも早く平和な世の中になって欲しいです。

広島で見た景色

東大和市立第二中学校　1年
手島　結矢

71年前、焼け野原で死体がゴロゴロころがっている様子なんて、今ではほとんど分からない。しかし、話をしてくれた人、当時の展示を見ていると分かった。広島は戦争を二度としてはならないと決めていることを。

地域の戦争・平和学習では、自分たちの町で起きていた戦争について学んだ。東村山について。小学生の授業が少なく、駅に兵隊を送りにいったり、疎開にくる子供たちがいたりしていた。しかし、その東村山にも心が温かくなるエピソードがあった。B29がある日、東村山の畑につい落。そのB29には人が乗っていたが亡くなっていた。畑の主人はその乗っていたアメリカ兵のために、平和観音を作り供養をしたのだ。敵・味方関係無く、供養することは平和への一歩となったと僕は思う。

東大和について。僕たちが住んでいるこの場所で、111人死亡したなんて考えられない。今は、変電所でしか傷あとを見ることはできない。しかし、あれだけでは、人の命については分からない。DVDや話を聞いたことで初めて知ったこと、111の命が亡くなってしまったことを学んだ。変電所のいたる所に銃げきのあと、ひどい所は鉄筋コンクリートに穴があいている。一見、見ただけでは、分からない弾の跡ではない。人の命については、分からなくても、戦争のむごさを語ってくれていると思った。

広島の被爆者体験講話、涙を浮かべながら話す語り部、白石さんの話は、今までの話しつないでいる人と違い、自分の体験を思い出したくないようだった。なぜ、そこまでして話さなければならなかったのか。やはり、白石さんは僕たちに語り継いでほしいと思っているのではないかと考えた。特に伝えたいことは、「核のはい絶に行くのではなく、日常的に平和をつくってほしい」、「両親を大切に」という言葉だと思う。僕もこれから、このことを心に留めておき、時々思い出したい。

本川小学校で話をしてくださった、岩田さんの話は、しょうげき的だった。岩田さんのお母さんの家族の話は、涙が出る話だった。原爆によって家族写真を撮りたくなくなってしまうエピソードは、今ではありえない話だ。岩田さんのお母さんの気持ちを100%は分からないが、少しは分かるような気がする。傷つく人が少なくなるために、戦争をしてはならないと強く思った。

広島城は行く前には、あまり戦争と関係ないのでは無いのかと思っていた。しかし、そこには、広島に原爆を持った戦とう機が来てる事を伝えようとして原爆が落とされた所、熱線で石垣がこげている所も残していた。これは、広島の街全体が、過去にあったことから目をそむけず、伝えていくという決意なのではないだろうか。

この広島派遣事業は、戦争について深く学んだ初めての機会だった。これから生きていく中で、このような学んだことは、伝えられる人には伝えていきたい。また、広島だけでなく、長崎、また、東京で起こった戦争について調べたいと思った。広島を笑顔で歩いている人がいても、昔は、笑顔で歩けなかった時代もあった。平和なことを感謝し、戦争は絶対に起こさない。

平　和

東村山市立東村山第七中学校　３年
蛭川　ななみ

戦後71年を迎えた、今年の８月５、６、７日の３日間。私は平和の大切さを学ぶため広島派遣事業に参加しました。最初はあまり乗り気ではなく、不安を感じながらでしたが、次第に引きこまれていき、原爆について、平和について率先して学んでいくようになりました。色々なものを見て、様々な体験をして、自分の中での考えも改まっていったんだと思います。特に私は広島へ行って、二つの物事への価値観が変わるのを感じました。

一つ目は戦争についてです。私は今まで戦争は遠い昔の話だと決めつけあまり理解しようとしていませんでした。自分には関係のない話だし、第一、今の日本は平和だからと思っていたからです。テレビで見たり、授業で学んだりしていても、何も実感はわいてきませんでした。ところが実際に広島へ行ってみて、式典に参加したり平和記念資料館を見学しているうちに、なんて自分勝手な考え方をしているのだろう、と思うようになりました。特に本川小学校で聞いた岩田さんのお話は、本当に胸を打たれるような衝撃を受けたことを覚えています。

「未来は、あなた達がつくっていくんだからね。」

私は、この言葉に強い責任を感じました。この平和な状況が続くのも、空から突然核爆弾が降ってくるのも、全て私達次第なのです。だからこそ戦争を知らない私達が伝えていく必要があるのです。戦争の辛さは、苦しさは私にはわからないけど、よりよい未来をつくっていくために、できることをしたいと思いました。

二つ目は平和についてです。私が広島に行った時に目にしたものは、豊かな自然と発達した都市、そしてそこを歩く人々の笑顔がありました。私はそこにもうあの悲劇は繰り返さない、という平和への強い意志を感じました。しかし、それまで学んできた以前の広島の悲惨な姿とは大きく異なるその光景に、ここに原爆が落とされたなんて嘘のようだと思ってしまいました。その矢先に見たものが、原爆ドームです。原子爆弾が投下されたその時から変わらないこの建物は、私に戦争の辛さと平和の大切さを訴えかけているようで、何も言葉が出てきませんでした。ここで悲劇が起きたのは確かなことなんだと思い知らされました。そこで初めて、平和という言葉が持つ意味と重みを感じることができました。今、私が普通と感じているこの現状が、日常が平和そのものであり、大切にしなければならないものなんだと改めてそう思えました。平和とは、一人一人の思いで生まれるものです。広島の人達が戦後から今まで築いてきたこの「日常」を、守り伝えていかなければいけないという決意を感じました。

この平和学習を終えて、私は今までよりも平和や戦争に対する思いが強くなりました。戦争も平和も、人の手でつくりだしたもの。それならどちらも、人の手でなくすことができます。どちらをなくすのか、それは私達が決めることだと思います。もう犠牲者が出ないように、誰も傷つくことがないように、私は戦争の恐怖を受け止め、未来に伝えて平和の輪を広げていきたいです。

知らなかった戦争の事実

東村山市立東村山第三中学校　３年
堀　史弥

僕は今まで、この平和についてや戦争についてなどという学習はほとんどやってこなかったし、気にすることもあまりありませんでした。だから僕は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業の募集の紙を見て、「ぜひ、行ってみたい！」と思いました。

最初の地域の戦争・平和学習では、僕たちが住んでいる地域で起きた戦争の出来事について知るために、東村山ふるさと歴史館、東大和市立郷土博物館、旧日立航空機株式会社変電所に行きました。郷土博物館では映像でこの地域の戦争の話を見ました。その映像では、自分の地域なのに全く知らないことだらけで、こんな悲惨なことがあったのかと、おどろかされました。変電所では中に入らせてもらい、話を聞きました。中は一度修復されていてきれいになっていたけれど、２階の天井は雨もりをしていました。そんなボロボロになるほど襲げきされたと思うと、複雑な気持ちになりました。

この日１日を通して僕は、自分の住んでいる近くの地域のことなのに、何も分かってないなと思いました。そして、改めて戦争はやってはいけないなと思うことができました。

広島派遣事業では、1945年８月６日に落とされた原爆について、その頃の被爆者の方の生活などを知りました。

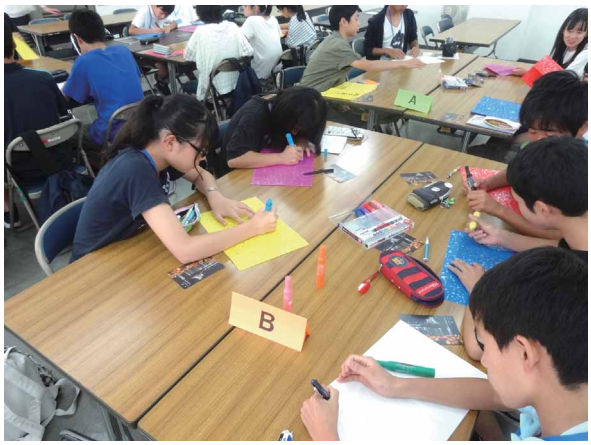
１日目の被爆者講話では、原爆が投下される瞬間の様子や、爆風や熱線で皮ふがただれて苦しんでいる人達の話などがあって、１日目から東村山と比べ物にならない残こくさが伝わってきました。

２日目は、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参加しました。そこでは広島市長のお話や、子供代表のお話を生で聞けて、すごく感動しました。安倍総理大臣のお話を聞けたことも、すごく貴重な体験だったし、とても興奮しました。

そのあとは原爆ドームや、広島城などを見て、また、広島での悲惨な出来事について知ることができました。

３日目は、平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行って、原爆が投下された時の詳しい情報などをたくさん知りました。オバマ大統領が実際に作った折り鶴なども展示されていて、すごいなぁと思いました。その後に佐々木禎子さんの原爆の子の像に僕たちが鶴を置いて祈りました。そのとき見た鶴の数は１万をこえているほど多かったです。そこに僕たちの思いも届くといいなと思います。

今回の学習を通して、僕にとってすべてが貴重な体験になりました。また今まで知らなかった戦争について知ることができて良かったです。今回僕たちが体験した学習をまわりへ広めていきたいです。



平和への想い

東大和市立第三中学校　３年
宮城　彩菜

当初、私は自分が住んでいる地域の戦争のことも、広島であった戦争のことも、あまりよく知りませんでした。幼い頃から都立東大和南公園の変電所をながめてきたけれど、戦争の恐ろしさをちっとも分かっていませんでした。

私は、この事業を通して東大和市の戦争に関してのDVDを観て、とても驚いたことがたくさんありました。それは、当時の空襲警報の頻繁さ、一瞬にして何十人もの命を奪ってしまう爆撃の恐ろしさなどです。そんなに恐ろしいものが東大和市に落とされていたことを初めて知って、戦争についての怖さを少しでも深く分かった気がしました。今、自分達が暮らしているこのまちが、かつて戦場で決して安全ではなかったことを知ることができ、今ある暮らしは幸福なことだということも分かることができました。

広島であった戦争については、世界で初めて原子爆弾が落とされ、数えきれないくらい多くの死者や被害者が出たということしか知りませんでした。しかし、広島に行き被爆者体験講話やとうろう流し、平和記念資料館、本川小学校での岩田さんのお話を聞いたら、広島であった戦争のことをより詳しく知ることができました。

とうろう流しは、テレビや新聞で見たことがあったけれど生で見るものは全く伝わるものが違ってとても感動させられました。たくさんの人が平和への願いを込めてとうろうにメッセージを書き込み、火を灯して川に流していく姿は本当にすごいと思いました。多くの人々が平和を願い、みんなで一つのことをしていることが素敵だと感じました。東大和市での平和市民のつどいでもメッセージを書き込んだキャンドルに、明かりを灯すということをしましたが、それもまたとてもきれいでした。しかし、広島でのとうろう流しに比べてキャンドルの数は本当にとても少ないです。私は、そのキャンドルの数がこれからもっともっと増えていってほしいと思いました。私達の世代の人達が戦争について考えることは、とても重要なことです。一人一人が平和へつながる一歩を歩めていけたら良いのだろうと思いました。

本川小学校での岩田さんのお話は、悲痛な思いにさせられる内容で、戦争の恐ろしさ、その被害をより知ることができました。実際にあったとは思い難いような内容で、戦争が怖いと強く思いました。実際に人から聞くお話は、テレビや本では伝わらないものがあるのだと思いました。年々、お話を語って下さる方々が減っていってしまっているのが現状です。そんな中で私達のような世代がお話を聞き、未来へと語っていかなければならないと感じました。

岩田さんは、最後にこんなことをおっしゃいました。

「『戦争なんてずっと昔の話』、なんて思わないでね。もしかしたら、『未来の話』になるかもしれないんだよ。『未来』はあなたたちみんながつくっていくものだからね。」

私は、この言葉を聞いて、とても考えさせられました。なぜなら、あの惨状が日本の未来になり得ることをしっかりと考えていなかったからです。今は平和な日本でも、何十年後かにはひどい惨状になってしまうかもしれないのです。大切な人を失う悲しみには耐えられるはずがありません。あの惨状を日本の未来の姿にしないためにも、一人一人が平和への意識を高めていくことが必要なのだと、改めて思いました。

Cグループ

私の未来と覚悟

東大和市立第五中学校　３年
岸本　渉

私にとって広島とは、同じ国にあるがまるで別の国のような心の距離を感じていた。それはきっと、広島は戦争があった地、東京は戦争が無かった地という認識があったからだと思う。私の中でのその常識は７月21日に崩されることになった。

７月21日、私達は地域の戦争の学習をした。私はまず東村山ふるさと歴史館でグループを発表された。同じ学校から来た二人や東村山まで行くマイクロバスの中で仲良くなった人と同じになりたいと思っていた。だが、結果は別のグループになってしまった。悲しみの中私は知らない人達との広島派遣に不安を感じた。その日は、東村山の平和観音の話や東大和の変電所などを巡りいろいろなことを学んだ。特に、この地域では起こっていなかったと思っていた戦争が身近なところでも起こっていたという事実に大変驚いた。

８月５日、私達が広島に行った日だ。その日の広島は35度を超える程の暑さで少し寝ぼけていた体は一瞬で目を覚まし、これからの広島での体験への気持ちが高ぶった。私達が広島に着き最初に体験したのは白石さんという女性の被爆体験のお話だった。ごく当たり前の生活をしていた白石さんは、ありきたりの生活の１ページ、本を開いた瞬間に原爆が爆発したと聞いた。私はこの話を聞いて、普段の当たり前など戦争の前では通用せず、いつ崩れてしまうかわからない恐怖の中で生活を送っていたことを知り自分がどれだけ恵まれているかを思い知った。

次に私達は、とうろう流しに使用するとうろうの柄をつくった。私は白石さんが言っていた「両親を大切にすることは平和につながる」という言葉が心に残っていたので、そのような趣旨の言葉を書いた。

２日目、私達はまず広島平和記念公園の式典に参加してきた。式典の中で私が最も心に残ったのは総理大臣のスピーチだった。やけに聞いたことのある声と深いスピーチ内容は私にとって一生残るであろう思い出となった。

また、私達はとうろう流しを行った。川に火を灯したとうろうを流す行事で、例年たくさんのメッセージが書かれたとうろうが川を埋め尽くすそうだ。私達はたくさんの人達が並んでいた列に並び、その時を待った。私はとうろうとは、キャンドルのように固いものだと思っていた。だが、いたってシンプルなつくりの紙製の物でそこに驚いた。

その日の夕食はお好み焼きだった。広島の名産物である牡蠣がのったとてもおいしいお好み焼きだった。腹を満たしホテルへ行くためのバスに乗った私達は、先程とうろうを流した川の近くを

通った。そこにはまるで天の川のようにぽつぽつとした光が群れをなし、ゆらゆらとゆれ動くさまがあった。私はそれを見たとき戦争への人々の思いや平和への思いを深く感じ、広島に来て良かったと心から思った。

３日目は広島平和記念資料館に行った。広島平和記念資料館には多くの展示物があり、原爆の恐ろしさを改めて感じることができた。また、展示物の中で最も印象に残っていたのは、被爆をした人達の肌がただれているジオラマだった。そのジオラマは人の無力さや、戦争の無惨さを表しているように私は見え、どうしようもない悲しさを感じた。

帰りの電車にて。私達は３日間の体験を経て、帰りの新幹線に乗っていた。私は、心の底からあふれでる充実感と満足感に満たされながら仲良くなった友との会話を楽しんでいた。

私はこの事業を通して世界観が大きく変わった。人にとって当たり前の日々などない。いやむしろ、当たり前という言葉がおかしいのかもしれない。私にとって、または若者にとって疑問とは宝だ。私は未だに宝探しの旅路に立っているだけと思うとひどく赤面した。

平和の大切さ

東村山市立東村山第六中学校　２年
菅原　莉彩

私が、広島に行って印象に残ったのが、被爆者体験講話です。これは原爆で被爆した人がその時のことなどを語っていただける貴重な講話です。私はこの話を聞いて、なんて悲惨なことが起こったのだろうと思いました。その方は女性で７歳の時、教室で本を開いた時に被爆されたそうです。原爆が落とされた時は、青白い光でものすごい爆音がして、おなかを突き抜けるような感じがしたと言っていました。教室の中は大騒ぎになっていたそうです。家に帰ろうとしましたが、下駄が飛ばされ裸足で帰ったそうです。頭や足にガラスがたくさん刺さっていたことも、お母さんに言われるまで足などが痛いと思わなかったそうです。夜になり、外からざわざわという音が聞こえてきたそうです。その音は、熱さのあまり表面の皮膚がただれて垂れ下がって、砂と皮膚がすれあう音だったそうです。私はこの話を聞いてとても残酷なことだと思いました。なぜなら、罪のない人たちの命が失われていくことがとても悲惨なことだと思ったからです。

私たちは平和記念式典に参列しました。平和記念式典では、たくさんの人が式典に参列していました。外国の人たちも参列していました。私の席の近くに熱心に話を聞いている外国人がいました。その外国人はまるで自分の国の話を聞いているように見えたのでうれしくなりました。私も、海外のそのような式典があれば参列し、まじめに話を聞いてみたいと思いました。

私は、広島に行って学んだことや、感じたことが二つあります。一つ目は戦争の悲惨さや残酷さです。二つ目は、友達や家族がそばにいる事がいかに大切かあらためて知ることができました。そして何よりご飯を食べられて眠ることができるというあたり前の生活を送ることができるということに、私はありがたく思います。私はこれからも、あたり前のことをあたり前にできる平和な生活が続くよう願っています。そして、今回広島に行って学んだ戦争の残酷さなどを身近な人たちに伝えて、その伝えられた人がまた身近な人たちに伝えていくなど、私ができることをしてみるというのが大切な事だと思います。そしてそれが平和につながっていくと信じています。

平和の大切さ

東大和市立第二中学校　３年
寺島　那菜

私は、地域の戦争・平和学習広島派遣事業で戦争の悲惨さや原子爆弾の威力の大きさなどを学びました。私は地域の戦争についてあまり知りませんでしたが、今回の事業で私たちの身近な戦争について知ることができました。また、広島では原子爆弾が落とされたことは知っていましたが、その被害までは想像がつきませんでした。ですが、広島に行って原爆ドームを見た時はびっくりしました。なぜなら、原爆ドームの一部しか残っていなかったからです。原子爆弾が落とされた周りはほとんど全壊、全焼でした。そのことを聞いて私はとても恐怖を感じました。そして戦争はあってはいけないと思いました。その他にも被爆者の話や式典に出たりしました。私は、この事業で戦争について深く知ることができ、平和と戦争を深く考えることができました。ですが、戦争はなくなりません。被爆体験をした白石さんも「戦争は一人一人のけんかであり、大きくなれば殺し合いになる」と言っていました。また、平和については「小さいことからやれば平和につながる」と言っていました。私は、この話を聞いて平和は願っていても平和にならないと思いました。なぜなら、一つの争い事が戦争に発展してしまうからです。その戦争が大きくなれば核兵器を造り出してしまうことを白石さんの話を聞いて分かりました。一つの争い事が大きな争いへと変わりもっと大きくなれば関係のない人達を巻き込んでしまいます。そして、その争いが長く続けば続くほど罪のない人達の命を奪ってしまい、今までに起きた戦争のようになってしまいます。私は、そうならないために平和を今の暮らしを守っていきたいと思います。今は、戦争の頃と比べて安心・安全です。その安心・安全な暮らしができているのは色んな人達が守ってくれたからです。そして、私たちが安心して暮らしている今を守り続けてくれた人達と思い出したくない戦争のことを伝えてくれた人達に感謝したいです。また、家族や友達などいろんな人達を大切にしてもう二度と原子爆弾が落とされるような戦争を繰り返さないためにも平和を守り続けたいと思いました。これらのことを学べたいい機会でした。これからは平和のために今回体験したことを周りの人達に伝えていきたいです。

広島派遣事業を終えて

東村山市立東村山第二中学校　１年
長須　心優

私は、今回の平和学習で平和や戦争について本当にたくさんのことを学びました。私は、広島に行く前から戦争は絶対にしてはいけないものと思ってはいたものの、実際に戦争を無くすために何かをしようとしたり戦争について調べたりしていませんでした。しかし、今回の事業に参加し命や平和の大切さをまわりの人や後世に、私が伝えていかなければならないと思いました。

広島に行く前に私達は地域の戦争について学びました。そこで、私は初めて東村山市や東大和市も空襲を受けたと知りました。東村山市は大規模な疎開場所になっていたり、今の富士見町あたりに陸軍

少年通信兵学校があったりしました。そこでは、私と同年代の人が訓練を受けていたそうです。東大和市には戦時中からある旧日立航空機株式会社変電所が今も残されています。変電所の壁に残された沢山の銃弾の跡を見たときは戦争を身近に感じ、恐怖を覚え、ゾッとしました。変電所を使っていた当時は、勉強よりも働く事が重要な時代だったと聞き、私が毎日学校へ行き勉強ができているのはとてもありがたいことだと思いました。まだこの変電所を見たことがない人はぜひ見に行ってほしいです。

広島では語り部の方から実際に話を聞くことができました。その会場に行く途中に原爆ドームが見えました。今は、緑と水が美しい町となっている広島とは対照的に、当時のまま残る原爆ドームは異様な存在感をはなっていました。語り部の方の話の中には思わず耳を塞ぎたくなるような内容もありました。特に心に残った言葉は「戦争はケンカだから、平和を守りどこの国とも仲良くし、両親を大切にしてほしい。そういうことから小さな平和が生まれる」という言葉です。その言葉を聞き私は、大きなことはできなくても日々の生活の中で相手を思いやり、お互いに助け合うことを自然にできるようになる、またこれをしたら相手がどう思うかを想像し行動することが大切なのかと思いました。語り部の方にとっては本当に思い出したくない事もあると思います。それでも、私達の未来のために教えてくださいました。そして、戦後71年を迎え実際に戦争を体験している人が少なくなっている今、本当に貴重な体験をすることができました。

そして、広島平和記念式典に参加した日は71年前と同じ、よく晴れたとても暑い日でした。平和式典は、とてもたくさんの人が集まり混雑していました。外国人の方々も大勢いました。少しザワついていましたが、黙祷が始まった瞬間に静寂に包まれ、みんなの気持ちが戦争で犠牲になった方々へ、そして平和に向かって一つになっている気がしました。

その日の夜のとうろう流しでは思った以上に幻想的できれいでしたが、71年前にこの川や近くで起きた出来事を想像してみると、とうろうの光がとても悲しく、そして永遠の平和を強く願っているように感じました。私は、このとうろうの光にのって、広島から世界中に平和の光が流れていく様な気がしました。

最終日に行った平和記念資料館では、焼きただれた人々の模型や真っ黒にこげた三輪車、どろどろに溶けたガラスびんなどが展示されていました。そして、特に驚いたのは原爆による後遺症です。原爆には後遺症があり今もなお苦しんでいる人がいます。私は、この事実を知り、原爆が投下されて71年もたっても苦しんでいる人がいるのだから、とても恐ろしいものだと思いました。

そして、何よりも私は平和な日本で生きている幸せを感じ、平和はあたり前ではなく、みんなが創り上げていくものだと思いました。私は、この夏に学んだことを一生忘れません。このような機会をいただきありがとうございました。

行動が未来を創る

東村山市立東村山第四中学校　1年
松井　陸

僕は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加してこれまで以上に戦争や平和について考えることができ、僕の人生の中でも大きな進歩をとげることができたと思います。そのため、今回見聞きしたことを他の人へ伝えていきたいと思います。

地域の戦争・平和学習会をした時は、身近な場所の戦争の被害やこんせきを見ることができました。そこから、僕たちが住んでいるこの街にも戦争があり、都心などから多くの人が疎開してきたということを知りました。旧日立航空機株式会社変電所を訪れた時、変電所はとても痛々しい姿をしていました。その姿から、爆撃の被害の大きさや住民たちの空襲への恐怖を感じることができました。

広島派遣事業では、実際に広島へ行き原子爆弾の恐ろしさや当時の日本の姿、平和の大切さを学ぶことができました。そんな中で、今回は原爆によって被爆した白石さんから話を伺い、とても貴重な体験をすることができました。白石さんからは、被爆を体験した白石さん自身のことや原爆投下後の広島の様子を聞くことができました。僕はその話を聞いて怖くなりました。路上や川には黒焦げとなった死体が沢山転がっていて、生きている人も手や足の皮膚が溶けて垂れ下がり、広島の街は死の街と化したそうです。同じことが二度と起きてほしくないという気持ちになりました。本川小学校平和資料館を見学した際に岩田さんから伺った話では、本川小学校の被害や実際に原子爆弾を体験した岩田さんの母、智津子さんについて知ることができました。この話を聞いて、被爆者が差別されたことが分かり、悲しい気持ちになりました。被爆者は大切な家族や友人を失って心に深い傷を負っているのに、世間からは被爆者として偏見や差別をされ、就職や結婚の自由を奪われ、将来の夢や希望でさえも踏みにじられてしまったからです。悲しい気持ちと共に、被爆者を差別した世間に強い怒りがこみ上げてきます。この世から差別や偏見をなくすにはお互いに認め合い、同じ人間として命の尊さを考えていく必要があると思います。

本川小学校平和資料館内には原爆の被害を物語る展示物が数多くあり、その中にガラス瓶がありました。普通、ガラス瓶は高熱の所に置くと割れてしまうはずですが、原爆による熱線がすごすぎてガラスが溶けたそうです。それが爆風によって変形し、今の形になったそうです。そのガラス瓶の中には水が少し残っていました。このことから短時間に浴びた熱線による高熱で溶けたガラスに水が閉じ込められて残ったのではないかと思いました。

広島城でも原爆によるこんせきが数多く見られました。石垣は熱線に当たった部分が黒く焦げ、広島城の天守は爆風により吹き飛び、学徒動員らが働いていた地下の司令室にはけむりや火のあとが残っていて、改めて原爆の恐ろしさを感じました。被爆樹木を見た時は、原爆による被害を乗り越え新たな命を芽吹こうとする樹木のたくましさに感激しました。

広島派遣事業最後の日に訪れた広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では戦争の恐ろしさや平和の大切さ、命の尊さや世界の核兵器の現状について学び、考えました。死没者の名簿を見た時には「たった一発の原子爆弾でこんなにも多くの人が死んでしまう」ということが一番心に残りました。

現在では、当時の世界よりもより多くの核兵器がより高い性能で全世界でつくられています。現在の世の中の平和はもろく、いつ壊れてもおかしくないのです。核兵器のみならず、戦争も人の命を奪うだけのものです。平和な世の中をつくるには、トラブルを武力で解決せずに、話し合いで和解し、お互いの命の重みを考え、戦争や平和について後世に伝えていく必要があります。未来が平和な世界になるかどうかは、今を生きる私たちにかかっているのです。

D グループ

この事業で学んだこと

東村山市立東村山第七中学校　３年
安部　知生

僕は、この事業で学んだことが三つあります。

一つ目は、東村山・東大和の戦争のことです。正直僕は、この地域で戦争の被害が出ているなんて思ってもいませんでした。しかし、実際は違いました。東村山には、爆弾が300発ほど、そして東大和にいたっては、３回の空襲によって、数えきれない程の爆弾が落ち、100人以上の人が死にました。それを聞いて僕は、戦争とは自分が考えている以上にひどい事なんだと感じました。また、その戦争の中で、東村山にB29が落ちたとき、その周辺に住んでいた人が、中で死んでいたアメリカ人たちのために平和観音を建てたという話を聞きました。そこで僕は、戦時中でも敵の死人のために働く日本人の心はすばらしいと思いました。

二つ目は、広島での原子爆弾の被害のことです。原爆の被害については、主に平和記念資料館で学びました。原爆が広島に落とされたとき約35万人もの人が広島市にいたと推定されています。そしてその内の14万人が原爆の影響で死んでしまったと推定されています。つまり広島市にいた人々の約５分の２の人が死んだことになります。また生き残った人々も多くの人が、原爆による後遺症によって悩まされ、差別されました。このような大きい被害が出たのは原爆の爆発の威力が大きかったという理由だけではありません。それ以外の理由とは、爆発した瞬間に四方へ強烈な熱線と放射線が放射されたことです。熱線は人々に重度の火傷を負わせるとともに建物などを燃やし被害を広げました。そして放射線は、生き残った人々に様々な影響を与え、それにより多くの人が死にました。また今でも被爆者の健康をおびやかしています。このように原爆は人々に大きな影響を与え、今も人々を苦しめています。なので原爆はもう二度と使ってはいけない兵器なのです。

三つ目は、当時生きていた人たちから見た原爆の被害と平和への想いです。これについては、被爆者の白石さんから話を聞きました。白石さんは当時の様子を鮮明に語ってくれました。白石さんは原爆が爆発したとき学校の教室にいました。そして爆風で割れた窓ガラスが多く背中に刺さっていたそうです。そんなことにも気付かず白石さんは逃げだし、げたもはかずに裸足で走りだしたそうです。家へやっとの思いで帰ると母親がまっていて

「どうしたの？」

と言われたそうです。そこでにやっと白石さんは、自分がけがをしていることに気付いたそうです。それほどまでに恐怖を憶えたのでしょう。その日、白石さんのおばあさんが家に帰ってきませんでした。次の日、外へおばあさんを捜しに行くと、こげた死体が多く転がっており、校庭などの広い所では穴を掘り、朝からずっと死体を燃やしていたそうです。その時の臭いは、言葉では表せない臭いだったそうです。その日おばあさんが見つかりました。しかし、背中には大きな火傷があり、見つかった数日後に亡くなりました。白石さんは、原爆によりおばあさんも含め４人もの大切な人を亡くしました。また白石さんも原爆症により命を危ぶまれました。そんな白石さんは、僕たちにこの世界を平和な世界にしてくれと言いました。そして小さなやさしさを広げていけば平和な世界がつくれると力強く平和への想いを言ってくれました。僕は、これから小さなやさしさを広げていこうと決意しました。

僕はこの活動で、戦争の悲惨さや、原爆の恐ろしさを学びました。なのでこの特別な経験を活かして、平和の大切さを広げ、少しでも平和な世界をつくることに貢献していきたいです。

笑顔でいられるように…

東村山市立東村山第三中学校　１年
阪下　紗友美

私は、今回の派遣事業で「戦争」についてとても詳しく知ることができました。戦争の恐ろしさ、命の尊さ、平和の大切さなど、私が知らない事まで学ぶことができました。

まずは、地域の戦争で学んだことです。今まで私は自分が住んでいる地域と戦争は無関係だと思っていました。でも、違いました。私たちが住んでいる東村山市と東大和市も戦地だったということが分かりました。さらに東大和市には「旧日立航空機株式会社変電所」が残されています。変電所が残されていれば、話だけでなく、実際に見て戦争を学べると思います。とてもありがたいし、変電所を見たことで、身近な場所で、昔戦争があったことを実感し、悲しくもなりました。

次に、派遣１日目についてです。１日目は、被爆者の一人である白石さんのお話を聞きました。話の中で私の頭にすごく残っている言葉があります。それは、

「本当は優しいはずの母が、戦争によってとても怖い人に変わってしまった。」

という言葉です。私は、この言葉を聞いた瞬間に戦争の恐ろしさが痛いほど分かりました。私も母が大好きです。だからこそ、白石さんも大好きな優しいお母さんが別人格になってしまった時の悲しさや恐ろしさを理解できたのだと思います。１日目にして、すごく悲しい思いでいっぱいになりました。

派遣２日目。本川小学校平和資料館で学んだことについてです。この資料館には、当時の写真や、被害を物語るものがたくさんありました。中には、触ることができたものもありました。触ってみると、熱で溶けたせいでゴツゴツしていました。熱線の怖さを実感できました。他にも、溶けたガラスや黒こげになったモンペなどもあって、すごく怖くなりました。熱でこんなに物がこげるなんてとても驚きました。

そして、最終日。平和記念資料館へ行きました。ここにも戦争の被害についての物がたくさんあって、当時苦しんでいた人たちの気持ちが感じ取れて、胸が苦しくなりました。本当に泣きそうになりました。同時に戦争は決してくり返してはいけないと強く思いました。

今回、この派遣事業に参加したことで、色々な人から平和がどれだけ大切なものかを教えられました。小さなことも平和につながるということも、私たちが平和のためにできるものがあるということも、本当にたくさんのものを。私は、そのことがうれしく思えました。なぜなら、私たち中学生にもできることをやって欲しいという願いが心にジーンときたからです。被爆者の方々からのお話は、10年後にはきっと貴重なものになっているでしょう。その話を、被爆者の方々の話を次の世代に伝えていきたいと考えています。今回の派遣事業で、本当に貴重な体験をさせてもらいました。多くのことを考え、学びました。私は、この事で学んだことを色々な人に伝えていき、みんなで少しずつ平和を作り出し、未来の人々が泣いているのではなく、笑顔でいられるような世界にしていきたいです。

地域の戦争と原爆の悲しさ

東村山市立東村山第五中学校　1年
白木　嵩人

僕は、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して多くのことを学びました。一つ目は、地域の戦争についてです。地域の戦争では、東村山市と東大和市の戦争について学びました。そしてこのような事が分かりました。東村山市は昔たくさんの家や家族をなくした子供たちのそかい場所だったそうです。東村山市もたくさん人が戦争へ行きほとんどの人が亡くなりました。300発以上が東村山市に、秋津町にはB29という米軍の兵器が落ちました。そのB29に乗っていた軍の兵を小俣家が助けました。周りから批判をされ「そいつを殺せ」と言われたそうです。ですが小俣家は殺さず、「親切に敵も味方もない」と言ったそうです。僕は小俣家の人がすごいと思いました。なぜかというと周りからこんなに言われているのに殺さなかったからです。僕だったら殺せと言ってしまうし、兵を殺してしまうと思ったからです。

東大和市では旧日立航空機株式会社変電所という所に行きました。旧日立航空機株式会社変電所を見るとへこみやところどころ穴があいていました。どうしてだろうと思いながら見ていると、B29が落とした爆弾や機関銃などがぶつかってできたと言っていました。人もたくさん亡くなったそうです。ですがこの旧日立航空機株式会社変電所はボロボロにもかかわらず戦争後も使われ続けていたそうです。

僕は旧日立航空機株式会社変電所を見たとき、これはすごく危なそうだなと思いました。なぜかというと、階段や床が傷だらけで雨もりもひどかったからです。それでも使われ続けていてすごいと思いました。

二つ目は、広島派遣事業についてです。この広島派遣事業では、原爆ドームやとうろう流し、被爆体験者談など原子爆弾に関わることをたくさん見たり聞いたりしてきました。特に心に残ったのは岩田さんの話と原爆の子の像です。岩田さんの話では、自身ではなくおばあさんの話でした。おばあさんは家族みんなで写真をとった次の日に被爆したそうです。岩田さんは山の親せきの家へ行って命を守りました。ですが、岩田さんの家族は原子爆弾をくらってしまい亡くなってしまいました。そのあと町を歩いていると写真屋さんに出会って、「君、岩田さんの子だよね。あの時撮った写真が燃えずに残っているよ。」と言われ写真をもらい、見ました。結局写真を見ることができたのは、岩田さん一人だったそうです。

僕は話を聞いて原子爆弾は悲しいと思いました。

原爆の子の像は、佐々木禎子さんの慰霊碑でした。この像は禎子さんが原爆病で亡くなったときクラスのみんなが募金で造った像だそうです。

僕はこの話を聞いて原子爆弾は夢も希望もなくならせる悲しい兵器だと思いました。

僕はこの事業を通して家族の大切さ自分の命の大切さがよく分かりました。これからはこの経験を活かして、くいのないように生活していきます。

学んだ事

東大和市立第四中学校　２年
中﨑　萌夏

私が、広島派遣事業で学んだことは二つあります。

一つ目は、戦争の悲惨さです。私たちは、広島城、本川小学校平和資料館、原爆ドーム、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、原爆の子の像に行きました。その中でも私は、本川小学校平和資料館が印象に残りました。本川小学校は、爆心地に近い小学校ですが形が残っていて現在も平和資料館として使われています。そこでは原爆二世の方の話をききました。この方の母親は、原爆が落とされてからは、毎日のように学校の校庭に死体が運ばれてきたり、今の平和公園あたりでは、がれきが運ばれてきて、山になっていたりしたそうです。私は、その話を聞いて、がれきの山ができるほど原爆の威力がすごかったんだなと思いました。また、原爆のせいで何も罪のない何人も何万人もの人が原爆の鉄の溶ける温度の1500度をはるかに超えた2000～4000度の熱線によって一瞬のうちに重度のやけどをおいました。また、爆風によりとうかいした家の下敷になったり、人々は吹き飛ばされ即死したり負傷したりと大変な被害がありました。その他にも展示物で、普通は溶けてしまうガラスがくっついて、中に水が入ったままのじょうたいのビンなど原爆の恐ろしさがわかるものがたくさんありました。

二つ目に学んだことは原爆が落とされたそのことを次の世代につなげていかなくてはいけないということです。このことを教えてくださったのが白石 多美子さんという方です。白石さんは、原爆が落ちた時、宇品国民学校の１年、年齢でいうと７才だったそうです。学校に行って防空ずきんと机の横にかけ本を読もうとしてページを開いた時、天窓に青い光が見えたそうです。そのとき教室はパニックになったそうです。青い光とともにガラスが降ってきたそうです。私はガラスが割れるほど爆風がすごかったのだなと思いました。白石さんはすぐに家に帰ろうとしましたがゲタも爆風で飛ばされていたそうです。しょうがなくゲタをはかずに家に帰ったそうです。そして親に驚かれたそうです。頭に２ヶ所３センチ位のガラスが刺さっていたそうです。それ以外にも細かいガラスが足の裏などに刺さっていたそうです。

私がここに書いたのは白石さんが話してくださったことのごく一部です。これからは白石さんのような被爆体験者はどんどん減っていきます。将来は必ずいなくなります。しかし原爆が落とされて何万人もの夢と希望をもった大切な命が一瞬のうちにうばわれた。この事実は、絶対に忘れてはいけないと私は思いました。そのために被爆体験者の話をビデオにとったり、今の内にたくさんの人に話をしてそれを語りついでもらったりして将来に語りつぐ必要があります。

今回の広島派遣事業を通して、原爆はとてつもない影響をたくさん与えて、絶対にこれを繰り返してはいけないということがわかりました。

この一瞬一瞬

東大和市立第五中学校　３年
松土　隆太

７月21日僕は、地域の戦争について学習しました。それは東村山市や東大和市の戦争や平和について学習しました。あまり知らなかった地域の戦争がよくわかった気がしました。

８月５日広島に行きました。３時間くらいかかったのかな？　初めての新幹線はとにかく速かった。広島に着いた。暑かった。僕は被爆者の白石さんという人に話をうかがいました。そこでは戦争時の様子などを聞きました。僕は少し気分が悪くなりました。でもとても良い経験でした。

８月６日僕はまずホテルにいました。そして広島平和記念式典に参加しました。それはとても深い内容でした。安倍内閣総理大臣や広島県知事、国連事務総長（代読）のスピーチを聞きました。中でも国連事務総長（代読）のENGLISH・SPEECHは印象的でした。

また、本川小学校に行きました。そこでは岩田さんという方の話を聞きました。それは本川小学校のことや被爆二世の差別などのとてもつらい話でした。つらい過去を持っているのに勇気を出して話してくれてうれしかったです。

次はとうろう流しをしました。前日に作ったとうろうを流しました。ほかのとうろうもたくさん流れていました。夜はお好み焼きを食べました。広島のお好み焼きは麺が入っていて上にはかきが乗っていました。お好み焼きはとてもおいしかったです。その帰り道バスからとうろうが見えてとてもきれいな景色が見えました。

８月７日僕はまず広島平和記念資料館に行きました。そこでは、蝋人形が展示してありました。それはもう、とてもリアルな被爆した人の人形でした。

原爆の子の像を見て来ました。そのまわりには、たくさんの人が折った折り鶴がありました。僕もそこに折り鶴をたくしました。

帰りの新幹線は長かった。みんなが寝てたからとても長く感じました。

８月13日僕は広島派遣事業で出来た友達の発表を見に行きました。頑張って発表していました。

８月28日次は僕の発表です。僕はＤグループの班長だったので、軽く５倍くらい緊張していました。リハーサルをしてから、本番は意外と早くて僕の緊張は15倍でした。心臓がばっくんばっくんいっていました。終わりました。本番は意外と早く終わって「ほっ」としました。とても良い経験でした。

僕はこの派遣事業で戦争の悲惨さや命の尊さなどたくさんのことを学びました。

僕はこの派遣事業に参加してとても良かったです。

初めての広島だったけどとても良い思い出になりました。

7 参加者アンケート

アンケートの目的

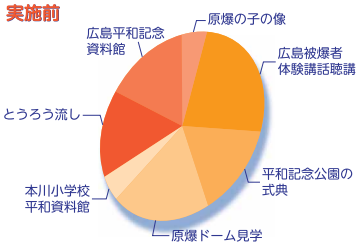
「平和」や「広島」についてのイメージ等について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者 20 人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

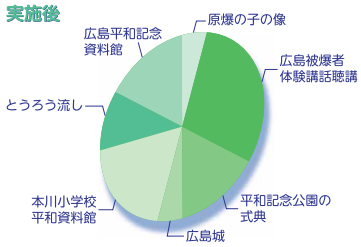
アンケートの結果

＊回答者数は、複数回答した方がいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

実施前 本事業に参加を決めた理由 （単位：人）

平和を学習したいから	13	
広島に行きたいから	1	
親に薦められたから	4	
友人に誘われたから	1	
その他（フリー）	1	―「見聞を広めたいと思ったから」





実施前 広島派遣事業で最も興味のある内容は （単位：人）

広島被爆者体験講話聴講	5
平和記念公園の式典	3
原爆ドーム見学	4
呉市での平和学習	0
広　島　城	0
本川小学校平和資料館	1
とうろう流し	3
広島平和記念資料館	3
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	1
そ　の　他	0

実施後 広島派遣事業で最も印象に残った内容 （単位：人）

広島被爆者体験講話聴講	6
平和記念公園の式典	3
原爆ドーム見学	0
呉市での平和学習	0
広　島　城	1
本川小学校平和資料館	4
とうろう流し	2
広島平和記念資料館	3
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	1
そ　の　他	0

実施前から関心を集めていた被爆者体験講話が、実施後も印象的だったとの回答でした。本川小学校平和資料館も実施後のポイントが増えています。ここでも、被爆者の方のお話を伺いましたので、被爆体験談がやはり心に残ったのでしょう。

実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何か （抜粋）

- 広島に原爆が落ちたこと。
- 原爆ドーム　・原爆の子の像　・広島城　・平和記念公園　・厳島神社　・お好み焼き
- もみじまんじゅう　・厳島神社　・かき　・お好み焼き　・瀬戸内海　・原爆ドーム　・記念式典
- 歴史的に重要な土地（厳島神社、広島城、原爆ドームなど）で有名　・もみじまんじゅう　・原子爆弾が初めて投下されたところ　・海軍で有名な呉がある　・オバマ大統領が平和公園を訪問　・広島電鉄など路面電車が発達　・原爆が投下されるまで古い街並みが残っていた
- 8月6日　・第二次世界大戦　・原子爆弾　・放射線
- 原子爆弾が広島に落ち、多くの方々が亡くなってしまった　・サンフレッチェ広島（サッカー）　・原爆ドームがある　・平和記念公園がある　・広島城　・人口が多い　・台風などがいつもあたり、多くの家が壊れたりしている　・広島カープ（野球）
- 原爆ドーム　・広島平和記念公園　・とうろう流し
- 原爆　・「核兵器廃絶」を訴える平和の象徴　・唯一の被爆国　・お好み焼き

実施後 実際に行った後の広島のイメージ （抜粋）

私は最初、「広島には原爆が落とされて、たくさんの方が亡くなってしまった」ということしか説明できない状態だった。でも、実際にその場へ行って、そんな簡単なことじゃないんだと分かった。

たくさんの方が亡くなっているけれど、亡くなるまでにどれだけ苦しい思いや痛みにおそわれたのか、目の前で人が亡くなっていくのがどれほど恐ろしいのかなど、本当にたくさんの痛みが分かって、すごく辛かった。

広島は戦争の悲惨さを、核廃絶を、世界に伝え続けるとても重要な場所だとわかった。

原爆の被害が跡もなくなっていて、回復力がすごいなと感じた。

実施前 平和と聞いて連想すること（抜粋）

戦争や犯罪がなく、世界中の人たちが戦争などを恐れず、安心して暮らせること

みんなで助け合って、いさかいなく仲良くできるということ

▪平等　▪自由
▪権利がある

▪戦争や内戦などで社会が乱れていないとき　▪だれでも平等で暮らしていけること

▪戦争がない　▪自由
▪子供がしっかり成長できる

▪恐れを感じずに、いつも通りの生活を送れること　▪誰もが自由でいられること

▪争いごとがないこと
▪みんなが安心して、楽しく過ごしていること
▪悪いこと、ものがこの世からなくなること

▪いじめやけんかが起きないような社会　▪人々がかんたんに亡くならないような社会

▪テロや事件などで亡くなる人がいないこと　▪問題の解決手段がケンカや戦争ではないこと

戦争や悲しい出来事が二度と繰り返されないこと

▪戦争、紛争、テロ等が起こらないこと　▪核がないこと
▪軍隊を持つ必要がないこと

▪戦争をおこさない国
▪差別がないこと

「一人一人が自由に」じゃなくて、少しずつ何らかの我慢（思いやり、気遣い）をして作るもの。協力と似てる？

▪衣食住に困らないこと
▪武器などのない世界
▪ごはんが食べられる

▪人々が共存すること
▪戦争が起こらないこと

▪現在の暮らし　▪戦争、内乱がない世界　▪互いの意見を認め合い尊重できること　▪笑顔が生まれる空間

▪毎日、学校に行くことができる　▪戦争がない　▪殺人、自殺事件がない

戦争がなく、みんなが笑顔でいること

争い事がない、兵器、軍隊が無い

▪誰もが平和だと感じられた時、平和だと思う　▪世界中で暴力で解決することがなくなった時

▪学校などでイジメがない
▪みんなが安心して穏やかな気持ちで暮らすために必要なもの

守るべきもの

戦争がなく、必要な生活が普通にできること

平和について、実施前から持っていた「争いや戦争がないこと」などの抽象的イメージから、より具体的に想像できるようになり、自分たちの日常にも照らし合わせた考え方ができるようになったことがうかがえます。平和に対する考えも深まりました。

実施後 平和とは（抜粋）

▪人々が平等なこと　▪毎日が楽しいこと。

核兵器がない

やはり、争いがないことだと思う。今の僕たちの状況が平和だと思う。衣食住が満足にあたえられていて、好きなことができたりしているから。

▪戦争がないこと　▪誰もが安心して暮らすことができること
▪普通の生活ができること。

▪この世界から一番消してはならないもの
▪守っていくべきもの
▪受けついでいかなければならないもの。

戦争をしないこと、互いにうらまない。

争いのない世界

戦争や小さい争い事もなく、兵器が無い世界。

けんかはあっても、それが大きなことにつながらないことなど。

人々の心に争いがなくなること。また、心が豊かになることだと思う。

平和は、誰かがつくってくれるものではなく、自分達でつくり、未来につなげていくものだと思う。

平和とは、トラブルや出来事を武力で解決せずに理論や話し合いで和解し、お互いを認め合うことだと思う。そうすることで一人一人が命の重さを考え、人に優しくすることができるのではないかと考える。

一人一人が相手の立場になって考え、争い事が少ないこと。

戦争や犯罪など、争いがないことと一人一人が安心や安全で過ごせることだと思う。

両親を大切に。

▪戦争がない　▪みんなが絶えず笑顔でいられる。

今の日本のように、過去の悲劇を忘れず、また繰り返さないといった意志によって守られている平凡な日々。

▪みんなが自由で平等な社会　▪ゴミが少ない社会

思いやりの心

戦争がなく笑顔があふれる世界。

海外からの広島に対する興味の高さが分かった。はじめは、広島は殺伐としたイメージがあったが、本当は、緑が多く、整然としいて、きれいな場所で、原爆が落ちた町とは思えなかった。

▪広島に行ったが、原子爆弾が落とされたなんて、全く感じなかった　▪広島をあんなまでに復興した広島の人たちの努力はとてもすごいと思う　▪広島の人々の平和を想う気持ちがとても強く想像以上だった。

たくさんの人がとうろう流しや式典に参加していて、小さい子供から年輩の方まで平和を願っていることを実感した。

自分が思っていた以上に、戦争は生ぬるい物ではないと感じた。被爆者の写真、話などを聞いていると、胸がしめつけられるような感じになった。普段見ている変電所と違って原爆ドームのスケールは全く違った。

思っていたよりも原爆による被害が大きかったということを知った。広島城を見学した時は、石垣が黒くなっている様子や被爆樹木、学徒動員らが働いていた地下の指令室の様子を見て、原爆の脅威をより感じた。

広島のまちは本当に明るくて、多くの人々が平和について考えているのではないかと思いました。

原子爆弾の大きさを見て、建物が壊れるくらいの威力を知って恐怖を感じた。

実際に原爆ドームや本川小学校などを見て、核兵器のおそろしさを実感して、核兵器廃絶に向けて、自分にできることを少しでもやっていきたいと思った。

広島に行く前は原爆が落とされた場所としか思っていなかったけれど、行った後は落とされたことによって、平和な世界をめざして頑張っているようなイメージだと思った。

実施前 本事業で何を学び、得たいか

（単位：人）

戦争の悲惨さ	15
命の大切さ	12
平和を守ることの重要性	18
自分の目で見て感じる事の重要性	9
同世代の参加者との意見交換による気づき	6
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	3
その他	0

実施後 本事業で何を学び、何を得たか（抜粋）

- 平和を守り続けることの大切さ、そして、戦争中の出来事を後世に伝える事の大切さを学んだ。身近で、出来ることから始める大切さ。
- 平和は当たり前ではないということ。

今まで戦争の事に関して全く知らなかったけど、今回の学習で被爆者の方の話を聞いて、改めて、戦争の恐ろしさを知ることが出来た。また、このような体験をさせていただいたので、新しく、優しい気持ちになれた気がした。

戦争について、もっと知り、そしてどんどん伝えていきたいと思うようになった。

地域の戦争及び広島派遣事業では命の尊さや次の世代に戦争の被害や平和のありかたを伝えていくことの必要性を感じた。今回見聞きしたことを他の人へ伝えていきたいと思う。

平和の大切さ。

地域・広島の戦争について学び、考えたり発表することで、
- 戦争についての知識
- 地域の人の前で発表することなどの初めての経験
- 自分の考え
- 平和についての関心

が得られたと思う。

「戦争」という言葉は知っていても、本当の恐ろしさ、命の尊さ、平和の大切さは、すべての人々が理解しなければならないことだと思った。そして、今回、私は、それを学ぶことができたと思う。私は、この事業にとても感謝している。社会が苦手で、ほとんどの授業を理解できていなかった私にとって、この事業に参加したことで学んだものは、将来、いや、今からでも、確実に自分のためになると思う。もちろん、平和にもつなげていき、この事業に参加した私たちで、平和を守っていきたいと思う。

学んだこと：▪戦争をすることで失うもの（家族・友人・家・会社など）　▪核爆弾の恐ろしさ。
▪平和の大切さ。
得たもの：▪戦争をもう二度と起こさせないという決意　▪今、自分がこうして生きていられることのありがたさ。

地域の戦争・平和学習では、自分たちの回りでも、戦争はいつ起こってもおかしくなく、他人事でないと感じ、戦争の脅威について得ることができた。広島は、世界規模で戦争を考えることができ、戦争を世界として考える大切さを得ることができた。

平和の大切さと核兵器のおそろしさ。

原爆の恐さ、命の大切さ、戦争をやってはいけないということ。

広島で、さまざまな体験をして、改めて、自分がどれだけ戦争や平和のことを軽率に考えていたのかが分かった。争いとは無縁な場所にいるからこそ、平和の存在が見えていなかったのかもしれない。

今までの戦争についての知識で、平和への意識がより一層高まり、その大切さを学ぶことができた。

戦争や原爆、広島など全てに対して、見方、考え方が変わった。

一人一人を大切にすることと私達が、今、安心して暮らせているのは、平和を守り続けてくれた人達のおかげで、一緒に守っていきたいと思った。

この事業で、戦争の悲惨さや、平和の大切さを学び、自分が今どれだけ幸せなのかが、よく分かった。戦争やテロが起きてはいけない、起こしてはいけないと思った、そのために、僕たちは、この事業で学んだことを周りに伝えて、広げていかなければならない。

授業とかで戦争について学んだことはあったけれど、実際に行って見て話を聞くのとでは、感じるものが全然ちがった。

戦争は、人の命を奪うだけでなく、なにもかも全てを奪い、戦争が終わって71年たった今でも、本当にたくさんの事に苦しめられているということが分かった。

原爆のおそろしさ、それを繰り返さないことを学んだ。今の平和な国に感謝する気持ちを得た。

実施後 地域の戦争・平和学習に参加し、身近な地域での戦争について実際に学び、どのように感じたか（抜粋）

東村山と東大和は疎開場所だったというのは知っていたが、実際に変電所などがあることは知らなかった。

私たちの住んでいる所も戦地だったなんて、本当に驚いた。自分たちには関係のないことだとばかり思っていたので、とても重大なことを知ることができたと思う。東大和市には「旧日立航空機株式会社変電所」があり、それを残しているのはすばらしいことだと思った。戦争の時代の物を残していれば、友達に話すだけでなく、その目で見ることが出来てすごく勉強になった。

自分の中での平和や戦争に対する価値観が変わったように感じた。今まで遠いもののように思っていたけど、自分達の行動次第で変わってくる事を知ることが出来てとても有意義な体験が出来たと思う。

自分が住んでいる町のことなのに、こんな出来事があったのかと思うような事が沢山あったので、もっと色んなことを知らないといけないなと思った。

私たちが住んでいる町にも戦争があり、戦争に関連するものや、出来事があったことを知りました。旧日立航空機株式会社変電所では当時の爆撃の激しさが目に浮かび、住民は命がけで生活していたのではないかと思った。

▪戦争は広島や長崎だけでなく、こんな所まで被害があったことにとても驚いた　▪B29が落ちたときの秋津の人の対応は、日本人の良さだと思った　▪東大和の変電所のことを自分は知らなかったけれど、見たときの迫力がすごかったので、もっと広げていったほうがいいと思う。

広島だけではなく、私たちの住んでいる東大和市や東村山市でも、戦争は行われたのだと思うと、恐くなり戦争を身近に感じることが出来た。

自分の身近な所で戦争が起こっていたことにおどろいた。

自分の住んでいる地域であった戦争については、何があったのか全く知らなかったので、DVDを見たりした時はとても驚いた。

▪自分の住んでいる地域は、そこまで戦争の跡は残っていないと思っていたけど、想像以上にたくさんの痕跡が残っていて、驚いたし、たくさんの被害が出ていたことが分かった　▪約70年前までは、ここが戦場であったということが想像できない　▪戦争の悲惨さ、平和の大切さを、目で見て知ることのできる貴重なものが身近にたくさんあるから、未来の平和を守っていく上で、大切に残していかなければいけないと思った　▪約70年前の身近な地域の現状をたくさんの人に伝えて、知ってほしいと思った。

最初は東大和で戦争があったということは感じていなかったが、学習会で勉強をするうちに、段々と実感がわいてきて、恐いと強く感じると共に、繰り返してはならない、ということが本当にわかった。

学校ではある程度、東大和市について習っていたが、変電所の歴史などは初耳で、衝撃的だった。東村山の、米軍兵士を供養した人のエピソードに心を動かされた。

戦争は、たくさんの命を奪っただけでなく、たくさんの人の人生を奪ってしまったんだと感じた。戦争はあってはいけないから平和を守り続けないといけないと感じた。

体験者の話を聞き、とてもくわしく空襲の回数等が学べた。

実施後 その他、本事業に参加した感想（抜粋）

▪被爆者の話を聞けて良かった（貴重な体験だったと思う）　▪他校の人と仲良くなれて良かった。

とくに原爆の子の像が心に残った。

今回の事業で、私がまだ知らない「大切なもの」をたくさん知ることができて、とてもうれしく思う。

原爆について学んでいくうちに戦争や平和を本当の意味で理解することができた。

貴重な体験ができた。

白石さんはお話の最後で「小さなことから平和がうまれる」とおっしゃっていたので、このことを胸に刻んで、これからの生活を過ごしていきたい。今回、この事業に参加させていただいて、貴重な体験をさせていただいた。平和について、具体的に、考えることができる機会を得られたこと、そして他の中学校の人達と、友達になれたことがうれしかった。

合計４日間の平和学習で、僕は、戦争の怖さ、今の普通の生活の幸せを、改めて実感できたし、中々体験できない、学習をさせていただいて、本当に良かった。でも、まだ日本で戦争がおこるおそれがあるので、僕たちが、後世に受け継いでいきたい。

この事業に参加しなかったら、広島に足を運んで、ここまでしっかりと戦争や核兵器について学ぶこともなかっただろうから、本当に貴重な体験ができて良かったと思う。そしてなにより、戦争に対する気持ちがはるかに変わって、自分でもすごく嬉しく思う。また機会があったら、ぜひ参加したい。

僕は、この事業に参加して世の中の平和や命の大切さを学び、戦争について考えていくとてもよい機会になったと思う。その上で、平和な世界は自分で築いていくものだということが分かった。戦争や平和について新しい考えをもつことができ、とても有意義に過ごすことができたと思う。

参加してよかった。自分自身、こんなにも多くの経験をさせていただき、戦争や平和について関心がわくとは思っていなかった。とてもよい経験、思い出になった。

他人事の戦争が身近に感じることができた。どんな状況だろうと戦争はしてはいけないという決心を広島の人から感じた。また、平和や戦争以外についても、人と人の輪をつなげられる良い機会になった。もっと広島や、また長崎についても知りたいと思った。

▪戦争というものがより具体的に考えられるようになった　▪平和であることの大切さが以前より分かった　▪被爆者の人の話を聞くというもう二度とないようなことを体験できてとても勉強になった　▪自分の地域の戦争のことも学ぶことができて戦争への理解が深まった。

この事業に参加して、戦争の悲惨さや命の尊さ、そして被爆者の思いを聞けたいい機会だった。

他の市からきた子たちとも、たくさん意見を言うことができ、市や学年を気にせずたくさん話せて、楽しかった。

この事業に参加して、平和の大切さと核兵器のおそろしさを知った。私たちは、これからもこのおそろしさを忘れてはいけないと思う。そして、このおそろしさを知った私たちはみんなにこのことを伝えていかなければならない。

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成２年10月１日

宣言

東村山市
核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都　東村山市

平成 28 年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業　報告書

平成 28 年 12 月　発行
編集・発行
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
・東大和市企画財政部企画課
東京都東大和市中央 3-930
電話　042-563-2111（内線 1425）
・東村山市市民部市民相談・交流課
東京都東村山市本町 1-2-3
電話　042-393-5111（内線 2558）